

家庭科の男女共修をすすめる会

会報

'90 夏

連絡先

東京都渋谷区代々木2-21-11
婦選会館内 T151

振替 東京九一 九一八九一

発行 一九九〇年六月三日

一九九〇年度 総 会 報 告

四月七日、婦選会館で一九九〇年度の総会が開かれました。

出席者は多くなかったものの、運動をすすめるという意欲にみちた具体的な発言が多く、活気のある総会でした。

一九八九年度は「多面的な運動をすることができた」と総括されましたが、決算は一七〇六二円の赤字というきびしい状況です。それでも会費は上げずにがんばることにしました。

おねがい

一九八九年度の決算は赤字になってしまいました。今年度はそんなことがないように、世話人はもちろん努力しますが、会員

昨年男子校アンケートを受けて、九〇年度の運動では男子校での家庭科履修の問題に特に力を入れます。

「おはようジャーナル」での古い性別役割分担意識に立った校長の発言に対して抗議文を発表した都高教秋川分会の岡部保博さんも参加して下さったので、後半の話し合いも大いに盛り上りました。

司会 磯部幸江
和典子

の皆様にもご協力をお願いいたします。

- 会費は忘れずにお納め下さい。
- 会員を一人でもふやして下さい。
- パンプ、本の販売にご協力下さい。

もくじ

総会報告	(1)
秋川高を訪問	(6)
都議会から	(7)
タイムリーだった男子校アンケート	(8)
男子校アンケート追加分	(8)
国会議員アンケート第二報	(9)
なぜ家庭一般の共学を主張するか	(12)
男女平等教育担当者へ	(13)
高校学習指導要領解説の問題点	(14)
指導要領解説家庭編に関する要望書	(15)
移行措置についての要望書を持参	(16)
文部省異動	(16)
教研集会報告	(17)
ベスト・メンに会員の長谷川さん	(17)
連絡会報告	(18)
世話人会報告	(19)
夏の集会のおしらせ	(20)

- カンパは誰方でも、いつでも、いくらでも大歓迎です。ただし、できるだけ郵便振替でお願いいたします。カンパと必ずお書き下さい。
- (世話人会)

一九八九年度総括

報告 持田 ナミ

本年度は、女子差別撤廃条約の精神にかなう家庭科の男女共修が公・私立学校を問わず、中・高等学校で実施されることを基本にすえて、多面的な運動をすることができた。

具体的には――

1 文部省に対しては、中・高等学校の新しい指導書について、九項目にまとめた要望書を提出した。(七月三十一日)

参議院の決算委員会で、家庭科の改訂学習指導要領の実施に関して、刈田貞子氏が長時間にわたって質問を行なった。(十一月十五日)

文部省に対して、家庭科の男女共修の実施に際し、学校現場の実状と文部省の進行計画の問題はないのか糾すよう、衆議院議員の江田五月氏に要請した。(十二月六日)

中・高等学校家庭科の移行措置についての要望書を文部省に提出した。(三月十七日)

都議会に対して、青木なち子氏を通して厚生文教委員会において家庭科の男女共修

実現のための条件整備の取り組みについて追求した。内容については、会報(冬号12、13ページに掲載)により情報を送ったが、各地で、自治体への働きかけをする必要がある。

2 家庭科の男女共修実施を男子校ではどう受けとめているのかを知り、今後の運動の進め方の参考にしたいと考え、アンケート調査をした(冬号11、8ページ)。回収率は四三%と多く、関心の高さを示している。回答の中「会」に対する要望も多く、内容も多方面に渡っていた。今後の活動に有効な資料が得られた。

女性国會議員向けアンケート(冬号9ページ)を行い、回収率は五三・五%であったが回答者全員が、「会」の運動に対し、積極的な態度であった。

3 各種団体の集会・行事や行政関係の講習会に参加し、その内容も会報で報告した。また参加者は、「会」の出版物、リーフレットなどを販売するとともに「会」の運動について宣伝した。

4 他団体との協力共同については、国際婦人年連絡会の活動・会議の内容を会報にて紹介し、家教連・Weの会などは、会報及びそれぞれで発行している機関誌などで情報提供をした。また母親大会の実行委員会に参加し、「男女平等教育を――男の子・

女の子の育て方」の分科会を担当した。その他、全国教研、女子教育問題、母と女教師の会などの集会にも参加するなど、協力共同して運動の発展につとめて来た。

5 世話人会では、地方の世話人会と連絡をとる分担を具体的に決めたが、二、三人の取り組みに終り、会員の意見、要望を汲み上げることが不十分であった。今後も引き続き取り組む必要がある。また、地方の世話人や会員からも積極的に情報を寄せてもらい「会」の運動を発展させていきたい。

6 共修の授業に必要な資料を新しく作ることはできなかったが、さきに触れたように、男子校を対象に行ったアンケート調査のまとめを資料として、会報で報告するとともに、マスコミに働きかけ、広く市民に情報提供ができた。さらに「会」の存在や運動についてもアピールすることができた。

7 組織の拡大、強化についても取り組んできたが、引き続きチャンスを見逃さず、方法なども検討して進める必要がある。

8 世話人会は定期的に開催し、充実した討議が行われた。会報は定期的に発行でき、会員の交流と情報提供の役割を果たすことができたが、リーフレット作り、授業に必要な資料作りは来年度に持ち越された。更に地方からの情報が多く寄せられることを期待したい。

一九九〇年度運動方針

提案 中嶋 里美

基本方針

中学・高校の男女共修家庭科が生活を大切にし、性別役割分業に一切つながらない教科として学習されることをめざし運動する。

具体的な活動

1. 国や自治体に多面的に働きかける。

①文部省や総理府婦人問題担当室に働きかける。

②文教委員や婦人議員を中心に国會議員に働きかける。

③各地で地方自治体の教育委員会、教育長、婦人問題担当者に働きかける。

④各地で地方議員(主に文教委員、婦人議員、身近な議員)に働きかける。

●働きかける内容として次の諸点を重視する。
ア、教員の増員や家庭科室の新設、充実などの条件整備を推進させる。

イ、家庭科教師だけでなく全教職員の理解を得るための研修を進めさせたり、その為のビデオ・パンフレット等を作成させる。

(議員を通じてこれ等を提案してもらい、文部省、各教育委員会、婦人問題担当室などに資料を作成してもらい現場に配布させる)

ウ、男子校の生徒が女子と同一の家庭科を学べるよう教師、施設設備、研修等について早急に取組むようにさせる。

2. 現場にむけて積極的に働きかける。

①現場での共修が一日も早く実現出来るよう学校訪問やインタビューにつとめ、情報を収集し提供する。

②現場同士の情報交換が活発になるよう積極的に働きかける。

③男子校での家庭科の取り組みを早めるようパンフレットを発行する。

3. 世論にむけて

①男子が家庭科を学ぶことの重要性を訴える集会を開く。

②パンフレット等を積極的に販売する。

③諸団体の集会にできるだけ参加してアピールする。

4. 組織の拡大と強化のために

①会員の拡大を積極的に行う。
②世話人を各県最低一人はおけるよう会員に働きかける。

一九九〇年度世話人

提案 半田たつ子

③世話人会を定期的に開き記録を残す。
④会報を年4回刊行し、情報の交換につとめる。

北海道	斎藤節子	福岡県	西内みなみ
山形県	佐藤慶子	福島県	柴田栄子
埼玉県	磯部幸江	榎木稲子	
東京都	中嶋里美	羽賀紀子	
東京都	芦谷 薫	石川由紀	大西 歩
	梶谷典子	駒野陽子	坂本ななえ
	中西芳子	半田たつ子	樋口恵子
	丸山新男	和田典子	
神奈川県	持田ナミ		
新潟県	小野塚サチ子	長野県	山浦恒子
岐阜県	橋本登志子	福井県	木村温美
石川県	木下雅子		
兵庫県	香川敦子	岡山県	丹原恒則
鳥取県	本橋靖子	島根県	大利良枝
熊本県	立山ちづ子	沖縄県	喜久川幸子

女性29名 男性2名 計31名
首都圏17名 四国地方はゼロ

1989年度決算

収入の部		
	予算	決算
会費	1,225,000	1,025,000
カンパ		25,170
前年度からの繰越金	15,963	15,963
計	1,240,963	1,066,133

支出の部		
集会	11,700	12,000
会場費	11,700	12,000
会報	568,400	445,594
印刷費	400,000	315,814
送料	158,400	123,200
運搬費	10,000	6,580
維持費	344,000	344,000
事務所代	84,000	84,000
アルバイト代	260,000	260,000
分担金	50,000	52,000
通信費	100,000	52,341
雑費	50,000	61,618
リーフレット※	100,000	115,642
予備費	16,863	0
計	1,240,963	1,083,195

収入-支出=-17,062

※リーフレットの予算をアンケートのために使いました。

'90年度パンフレット会計

前年度からの繰越し	766,767
'90年度売上げ	71,020
計	837,787

報告・提案 大西 歩

1990年度予算

収入の部	
会費(350人分)	1,225,000
前年度からの繰越金	-17,062
計	1,207,938

支出の部	
集会(2回)	40,000
会場費	40,000
会報(4回)	528,000
印刷費	360,000
送料	158,000
運搬費	10,000
維持費	344,000
事務所代	84,000
アルバイト代	260,000
分担金	52,000
通信費	55,000
雑費	65,000
リーフレット	70,000
アンケート	20,000
予備費	33,938
計	1,207,938

'89年度は支出も予算を下まわりましたが、会費納入が少なかったため赤字になりました。けれども、あえて'90年度も会費値上げは行わず、やりくりしてみることになります。パンフレット会計の方は'89年度には支出がなく、'90年度への繰越金は十分ありますが、これは次のパンフレット発行の時に使うこととなります。

討議から

△運動方針について▽
集会を必ず開くのか、状況をみて開くのがよいのか問題になり、採決の結果必ず開くという方針を決めました。
△予算について▽

'89年度は赤字だったので、会費の納入を確実にするためにどうしたらよいか話し合いましたが、会費未納の会員にはつきり通知する、入会勧誘を積極的に行うなど、これまでもやって来たことをしっかりやるという以上のちは出ませんでした。

支出をおさえることも話し合いました。都道府県の指導主事と教組に会報を無料で送っていたのをやめて、入会をすすめることを決めました。

△世話人について▽

首都圏以外の世話人と連絡を密にするため、去年に続いて、首都圏の世話人が個別に連絡するよう担当を決めました。

四国地方は世話人ゼロなので、四国の方に積極的に交渉することになりました。

話し合いから

都高教秋川分会の岡部さんが資料持参で加して下さったので、男子校の問題を中心に話し合われました。
まず学校の特異性に皆の関心が集まりました。

都立秋川高校は全寮制の男子校で一九七五年高校多様化の始まる頃の創立。親が海外で働いているという生徒などのため、という名目がありました。実は旧制高校のようなエリート校をめざしていたので女子は入れなかったとか。けれども受験の実績は上らず、今では積極的な希望でなく入学する生徒が多く、管理に耐えられずに中退する生徒も少くないそうです。

他の出席者からは、男子だけというのは不自然ではないか、男子だけで教育ができるのか、これは都税の使い方がおかしいのではないか、共学校にしようという運動はしないのか、などと疑問が出されましたが、分会の改革案の中に共学化は含まれていないとのこと。よそには全寮制の共学校もありますが、今の

ところ女子を入れて問題が起らないかどうか先生方に自信がないということでした。

家庭科については分会でこれから考えようとしているところで、関心のある先生はまだ少数ですが、「いいかげんでなく、ちゃんとした家庭科をやる」と話し合っているそうです。岡部さんが個人として今考えているのは、家庭が多様化して行くことをふまえて、男女のかかわり合いを含めて考えられるような家庭科を——女子との交流も少く、女をモノとして扱っているような本ばかり見ている生徒に、性のことをきちんと教える家庭科を——しかし抽象論でなく、具体的な技術も必要、ということだそうです。母子家庭や父子家庭の子供も多く、母親もがんばって働いているのに、そうした実態を無視した「おはようジャーナル」での校長の「えさを運び、外敵と戦い、争い、稼ぐのが男の役割」という発言は許せないとのこと。けれどもこの発言は多くの父母から支持されているそうです。情報ほしい、とも言われるので、和田世話人が「会」との交流を提案、さっそく実施することになりました。

ほかの男子校も次々に訪問しようということを決めて、閉会となりました。

〔記録・まとめ 梶谷典子〕

秋川高を訪問

—— 共学化はむり？ ——

大西 歩

男子校との交流が必要ということが総会で決まり、五月十二日に都立秋川高等学校に持田さん、本橋さん、和田さん、大西の四人で出かけました。新宿からJRで一時間余り電車を乗り継ぎ、秋川駅下車して徒歩十五分余の所に都立の全寮制男子校がありました。

宗方校長と面会

当校教師の羽生さんと加藤さんの案内で、予定にはなかった校長との面会をしました。校長室は香のにおいが充満した、十人程度の会議のできるテーブルと椅子、応接セット、校長用の机と椅子が配置されていました。校長の宗方さんに和田さんから訪問の趣旨として、「会」の起り、運動の拡がり、連絡会の団体との連帯、差別撤廃条約の批准と共修を実現するための条件整備の必要性について説

明をしました。宗方さんから共修という言葉について、別学で男女とも必修という意味なのかとの質問に、私たちは共学必修の意味であると伝えました。また宗方さんは、男女共学にしていくことも検討課題に乗せていくこと、差別撤廃条約実現のための権利運動について当然であることを言明しましたが、「共修というように教育ということに拡がってくと教育理念がなければならぬ」と否定的で、教育を受ける権利を人権とは認めていない人という印象でした。具体的に持田氏が家庭科を男女で実践して授業での拡がりがあったことなどを紹介しましたが、宗方さんは「一芸は万能に通ずる」を信念に、家庭科も含め、全教科の中からの選択を主張し、私たちは平行線のまま話し合いを終わることにして、羽生さんと加藤さんの案内で次に寮の中を見ました。

寮の生活は……

寮の窓には、洗濯物やふとんが干されて、一般的な高校生は自分の洗濯物なども親まかせだと伝えられています。当校のほとんどの生徒は自分で洗濯しているようですが伺い知れました。

職員の目が常に向けられているせいか生徒は極めて整然と生活を送っているように見受けられ、秋川高分会の組合費の中から私たちがごちそうになった給食のときには、六〇〇人以上の生徒が配膳、食事、かたづけをしているとは思えない手際良さでした。

しかし、生徒の食生活の中で、加藤さんも羽生さんも問題にされたのは、寮生活の中で三食とも食事が職員によって提供され、寮内では給湯はできるものの、ガスなどの火は使用できないこともあってか、生徒の多くがカップラーメンを夜食や間食に食べていることについてでした。ことに羽生さんは前任校の家庭科の教師が授業の中でカップラーメンをとりあげ、食べ続けることの体への影響を生徒に考えさせていたことの影響でこれを良くないと思っておられ、男子生徒にも家庭科をと声をあげてくださったお気持ちの一端がわかりました。さらに当校は校地が広く家庭科室をたてるスペースは十分にありますと羽生さんは話しておられました。

ただ一つだけ残念だったのは、寮生活の維持がすべての前提になり、教師の過重労働によって成り立っている当校では、実質的に女子を受け入れることを無理だろうと先生たちが考えておられることでした。

都議会から

—— 秋川高校長の

発言も問題に ——

石川 由紀

3月19日、厚生文教委員会では、青木菜知子、三井マリ子両議員が家庭科問題に関して質問をした。その中から行政の姿勢が見える数点を取り出して報告する。(敬称略)

青木・2月27日のNHK番組「ぼくたちも家庭科? 男子必修化の中で」の中で、都立秋川高校長は「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる教育があるべきだ」というふう

都高教秋川分会の決議

NHKおはようジャーナルの中で校長が示した「『男の子は男らしく、女の子は女らしく』育てる教育があるべきだ」などの考え方は時代錯誤であると指摘、次のように主張しています。

一、今回の校長発言は現場の声と異なることを、あらゆる機会に訴えるものである。

を続けていくということについて、どのように処置をしているのか。

宮澤・私どもが進めていこうとしている男女平等教育の推進の立場から、この趣旨をご理解いただくよう、機会をとらえて指導の手を伸べていきたい。女子差別撤廃条約についても各校に配布してあるが、認識が十分でないことがわかった場面もある。

なぜこの条約が出来たのか、批准した今、どのように対処すべきなのかの学習がしっかりできていない限り、秋川高の校長のような発言が各地、各部署で続くことであろう。今のような状態のままでは共修になれば、その中味は男女平等教育からかけ離れたものになる危険がある。もう一度、条約の学習を。

この、分会決議もその一つである。

二、校長は自らの発言の誤りを認め、父母の信頼を回復するよう、あらゆる機会に訂正の努力をすること。

三、都教委は宗方校長に対し、人権尊重・男女平等の教育を実現する観点にたつて、厳正な指導を行うこと。

(三月七日付)

つぎに三井議員の質問であるが、その中で特記したいのが施設設備と教員数に関するところである。答弁のみを記すが、有坂施設部長は「増設できるところは増設してあるので、生徒減傾向の中、状況を見ながら余裕教室を家庭科の教室に、計画的に転用していくつもりである」。

小豆畑人事部長は「施設との兼ね合いがあるが、二カ年で二百五十人を集中的に採用するということは、将来の人事管理上悔いを残すことになると考えている」。

この答弁は昨年10月5日の同委員会の際のものとは比べると後退してきている。89年冬号を見て欲しい。そして、他の地方自治体においても、その実施進捗度が鈍化していないか、チェックしてみてください。

タイムリーだった

男子校アンケート

半田たつ子

男子校アンケートは、八九年の活動としてヒットでした。学習指導要領が改訂され、男子校は戸惑いつつも何か手をつけなければ、と思っている所を実施したものでしたから。回答率が四三%に達したこと、各新聞の報道を始め、NHKのモーニング・ワイドが三分間とはいえ、すぐ取上げたこと。三分では余りに物足りない、報道部記者の綿密な取材

男子校アンケート追加分

持田 ナミ

会報'90春号発行後に私立1校(高・普・工)から回答がありましたので報告します。
問3―知っている。 問4―あーまし
問5―被服・住居・保育
問6―個人選択
問a―賛成 問b―まだ決めていない。
問c―家庭一般

の下に、おはようジャーナルで番組を作ったことなど、効果的な反響がありました。
私は、おはようジャーナルに出演したのですが、今まで何度かテレビに出て、その都度抱いた後味の悪さを感じませんでした。それは、家庭科を男女共に学ぶ必然性が、無理なく受け入れられるようになった証左でしょう。
中嶋里美さんが、世話人会報告で「必見!」と知らせて下さったので、都合のつく方は視聴されたようで、沢山の方から電話やお便りをいただきました。生番組でしたので、帰宅すると、婦人公論編集部から「共感した、婦人公論だってセックス記事ばかり載せているわけではありません」と「時代にそぐわない教育管理者たち」というようなタイトルで書

問d―家庭一般を選んだ理由―設備の面から考え調理室だけあるため。
問e―無記入。 問f―不明。
問g―「賛成。男子高校生は調理(食物)についての関心が高いため、男女必修は大切なことと思われます」
問h―「積極的な活動を期待します。遅くなりまして申しわけございません」
▲回答校総数二三五(四三・三%)でその中で私立学校は九一校になります。

いてほしいと、電話がありました。

変わったところでは、結婚式場に無料で美しいPR紙を配っている会社から「新しい結婚のあり方について特集を組むので」と、若い人が来ました。話がうまく噛み合わず、結局お断りしましたが…。結婚業者も今のままエスカレートしていくことに疑問を持ち、どう新しいスタイルをうみだすか、若い人のニーズのとらえ方について、研究しているのだな、とは思いました。

東京都高等学校家庭科教育研究会からは、「男子校アンケートの設問も知りたい、結果の数字も詳しく知りたい、当会でもアンケートを実施するつもりなので」と電話があり会報を送りました。番組の最中にも「再放送を!」との電話が何本もかかったということでした。

一番うれしかったのは、番組の中で問題発言をした都立秋川高校の校長に対して、いち早く、秋川高校分会の先生方が、決議文をまとめられたことです。決議文を送っていただき、その適確な文章に、職場の民主主義健在なり、とうれしくなりました。中心的な働きをされた岡部保博氏にお電話し、決議文を公表するお許しを得、四月七日の総会に御出席をお誘いしたのでした。タイムリーな活動の生む波紋について学びました。

国会議員アンケート

第二報

―二名の女性国会議員、会員にノ―
―新衆議院女性議員と衆参文教委員
へのアンケート結果―

芦谷 薫

今年二月に行われた'90総選挙で、衆議員の女性議員は7人から12人と増え、全体の二・三%、過去五番目に高い割合となりました。新しく議員となられた方が多く、新鮮な感覚で男女平等社会の実現にむけて取り組んでくださることを期待し、三月末にアンケートを実施しました。同時に、新メンバーとなった衆参文教委員の方々にもお願いいたしました。質問項目は前回と同じです。

さらに前回回答いただいた議員には、会報春号をお送りしてその結果を報告するとともに、同会報に掲載した「移行措置」の問題点や、各所から寄せられた情報と私達の考えをお伝えし、差別撤廃条約の精神にそった男女共修の実現にむけて、さらに国会でとりあげていただくようお願いをしました。その際、入会のお誘いをしましたところ、森暢子、荻田貞子両議員が入会され、大いに力づけられました。

一方、今回の締め切りは四月末。五月六日現在の回答は、8通と少ないのですが、その分いてねいに報告したいと思います。

対象58名(衆院女性議員11名、衆院文教委員30名、参院文教委員17名。尚、前回の女性議員アンケートに回答を寄せられた議員は除いた)中、回答8名(衆院女性議員3名、衆院文教委員3名、参院文教委員2名)。また、退職による返送1通(参院文教委員)がありました。

質問と回答のまとめ(文中敬称略)

問1 今回の教育課程では、すべての小学校・中学校・高等学校で家庭科を男女ともに必修することがきめられました。これについて、あなたはどう思いますか。

1 賛成 8 2 反対 0
3 どちらともいえない 0

★その理由について

◆実質的な男女平等を図るための、大変良い方法と思う。男女相互に理解を深めるために大いに役立つと思う。(鈴木喜久子 衆・社会)

◆生きること、くらすことは男女とも共通のことなので当然だと思います。(長谷百合子 衆・社会)

◆家庭科は単に衣食住にとどまらず、家族

のあり方や、子どもを産み育て、男女が共に生きる基礎的内容を学習するものであり、共に生きる責任において、全ての児童・生徒が履習するのは当然のことです。

男女が平等に家庭責任を有する、職業と家庭の両立を可能ならしめる措置をとることとは、国際的認識の一致するところです。差別撤廃条約批准国の責任において、男女が同一のカリキュラムで共修することは当然であり、平等実現の点からも重要。しかし今回の教育課程では不十分な点が多い。

〔菅野悦子 衆・共産〕

◆男女平等を推進するうえで、教育の果たす役割は大きく、性差別思想を払拭して、男女が互いに人格を尊重しあうことが必要である。また女性・男性の区別なく、一個人人間として生活し、生きていく上での基礎、基本となる分野であるから。(鍛冶清 衆文教・公明)

◆家庭科を履習することについて、男女を区別する理由はない。このことは家庭生活において、主として従来男性が行うとされて来た分野について女性が学習、体験すべきこと、これまた同様である。私自身、学校教育、家庭のしつけ、ボイスカウト活動を通じて、料理、掃除、せんたく、裁縫を身につけて来ており役立っている。(村田吉隆 衆文教・自民)

◆家庭生活を営む上で、男女の協力は不可欠です。「家事は女性がするもの」という考えでは、民主的で合理的な家庭づくりはできません。男性も含め、家庭生活を営む上での基本的知識・技術を習得することは大事なことだと考えます。(山原健二郎 衆文教・共産)

◆今後は、男女が協力して豊かな家庭生活を築くため、生活に必要な知識と技術を習得できるようにすることが大切である。

(田沢智治 参文教・自民)

◆明治以降、戦後教育まで含めて、高学年になるに従って、主婦準備教育という教科の性格が強かった。男女共修、必修となったことの意義は大きい。その意味でも、どこまでやりきれぬかが重大だと思う。文部省の国連での立場でなく、真の意味での積極性をどうもたせるかが鍵である。日教組や民間団体の今後の実践先導も重要である。(今日までの成果をふまえて)(会田長栄 参文教・社会)

問2 「女子差別撤廃条約」の条文の中で、家庭科の男女共修と特に関係の深いのは、どの項目とお考えですか。

◆第10条(c)(他にもありますが、ひとつといわれれば)(鈴木喜久子)

◆第10条(a)(b)全文(菅野悦子)

する②小学校の教科書から固定的な役割分担を意識づける表現をなくすようにする③親の意識改革(鈴木喜久子)

◆①男女ともにとることができる「育児休業法」の制定②パート労働を単なる単純作業だけにとどめることなく、専門職もパートでやれるようにすることも必要か③なんといっても長時間労働をやめる、このことなくして男女の同等な権利といってみても空論になってしまう。④平等教育の実践を小学校からはじめる。名簿順や家庭科教育などから(長谷百合子)

◆①雇用の分野における真の平等確保と平等を担保できる法見直し②あらゆる分野への女性の進出③民主教育の推進(菅野悦子)

◆①パート労働法の制定と、育児休業法の制定②婦人会館の建設や公的施設に保育室を設置するなど婦人のための社会教育の充実やその機会の確保③学校における男女平等教育の推進(鍛冶清)

◆行政には限りがあり、中広い社会教育運動が必要である(村田吉隆)

◆①民主的な人格を育てる教育をすすめる②賃金など雇用条件の男女差別の是正③臨教審路線に基く校長中心の責任体制教育(文相所信)強化を阻止し真に民主的な教育の推進(山原健二郎)

◆①公務員等への女性の登用の促進②生涯

◆第5条と第10条(鍛冶清)

◆第3部第10条(山原健二郎)

◆第10条(b)(田沢智治)

◆第10条(c)(会田長栄)

◆とても難しい質問なので、今後指導をいただき、ともに考えていきたいと思っております。(長谷百合子)

○解答なし(村田吉隆)

問3

a 中学校・高等学校において家庭科の男女共修をすすめるためにはどんな施策が必要ですか。該当する項目に○をつけて下さい。

1施設設備を拡充する 6

2教師の増員(家庭科担当教員) 4

3すべての学校に専任の家庭科教師を配置すること 3

4実習授業においては半数学級にすること 3

5男女共修について全教師の研修を行うこと 2

6校長・教務主任に男女共修に必要な資料を配布すること 2

※項目に○をつけるのではなく、「教える側、家庭での両親の伝統的な考え方を改めること」との記述(村田吉隆)

b 先生ご自身はこのことについてどのような活動として下さいますか。

学習の充実、婦人問題についての学習の拡充②婦人の社会参加の推進を図る(田沢智治)

◆①就業への男女平等の採用の条件整備②男女別学の抜本的改革③私学へのとりくみ強化(会田長栄)

b 先生ご自身はこのことについてどのような活動として下さいますか。

◆①機会あるごとに国会でも問題提起する②具体的な問題については今後勉強していきたい③活動される団体との接触を保って行動の指針とする(鈴木喜久子)

◆①「パート労働法」「育児休業法」の法制化をすすめる②女子学生と平等のあり方について話しあう。そのような機会をもちこちにつくることが必要だと思います。もちろん女子学生だけが議論の対象ではないと思います。社会のあらゆる分野で関係をおかえるということが必要です。(長谷百合子)

◆①大衆、国民運動と結んだ国会質問による追求②実態の調査③地元を中心に集会等あらゆる機会における宣伝(菅野悦子)

◆上記のための法制定の推進と予算の確保をすすめたい。(鍛冶清)

◆①議員団として全面的にとりあげてまいります②対政府交渉、委員会審議の強化

な活動をして下さいますか。

◆国政の場で問題とするものを研究していきたい(鈴木喜久子)

◆全部必要といえば必要ではないかと思えます。問2と同じように今後勉強させていただきます。(長谷百合子)

◆特に大阪三区の実態についてまず調査をしてみたい。機会があれば質問をやりたいと思う(菅野悦子)

◆家庭の内部での夫と妻のあり方についての考え方を改めることが必須。私は父親の考え方、しつけが正しく、本問題について正しい理解をもっているつもり。政治の問題もあろうが、家庭教育、考え方が改まらなければならぬ。家庭に第一の責任がある。(村田吉隆)

◆議員団として政治への働きかけ(山原健二郎)

◆関係予算の確保に努力したい(田沢智治)

◆教育予算の増額。家庭科教員の定数増などの意見反映(対政府)。教育研究会への参加と教職員との交流(会田長栄)

問4

a さらに広い視野から男女平等をすすめるために行政施策として優先すべき事柄を三つあげて下さい。

◆①募集人員(中学・高校)を男女同数に

③国会内の関係部門との協力など運動の前進に寄与する努力をつづけたいと存じます。(山原健二郎)

◆生涯学習の推進体制の整備が図られるよう努めたい(田沢智治)

◆制度は変っても、積極的に行政指導をすすめさせると同時に、教職員と父母の意識改革をねばり強く主張し対応していきたい(会田長栄)

結果をまとめてみて

今回の回答は数少ないながらも、男性文教委員の方より御理解深いお答えをいただき、又、前回回答くださった女性議員のうち三名は、文教委員である点からも全国の学校で家庭科の男女共修が実施するまできちんと国会で取り組んでくださることが期待できるものと、嬉しく思います。

衆参両院の女性議員も大勢となり、パワーフルに男女平等社会実現のあらゆる施策にとり組んでいかれることと思います。当会の発起人のひとりとして、家庭科の男女共修問題に取り組んでこられた故市川房枝議員の願い実現にむけても国会内での基盤が厚くなったことは心強い限りです。今後とも御協力を願いたいと思います。

なぜ、家庭一般の

共学を主張するか

和田 典子

「家庭一般は、現場でためされずみ」

現任の家庭科教師は、現在家庭一般を教えています。将来就任する仲間の大多数も、家庭一般と重なる教育をうけてきています。また小・中・高あわせると合計六十七年にわたって、家庭一般の系列を学んでもきました。したがって、それなりに家庭科についての素養を身につけていますし、家庭科教育について、あるいは教材についての経験もたくわえているわけです。

しかし問題がないわけではありません。従来の文部省家庭科は、性別役割分業を前提として女子を家事・育児責任者とときめつけ、そのしくみに適応する女子教化策として、時代の後追いの主婦技能の習得と女性づくり、家庭づくりを目ざしてきたからです。

だからこそ私たちは、その体制を撤廃しようとして十数年にわたって努めてきたのです。わたしたちが排除したのは女子のみ必修のしく

みでしたが、家庭一般の内容に反対したのではなくありませんでした。もちろんカリキュラムや教材については批判も加えましたが、全面的否定などしていないし、父母も子どもたちも家庭科学習そのものを否定しているわけはありません。

女子のみ必修のしくみが廃止され、根本問題が解決したのですからこの科目を否定する主要な理由はなくなったわけです。

「男女共学を成功させたいから」

生徒はもちろん、教師にとっても未経験の共学家庭科です。しかし、何としても成功させねばならないと思えば、教える内容くらい手馴れた、見通しのもてる、一定の自信がもてるもので出発したいのです。

もちろん内容が不当だというのなら別ですが、不当どころか子どもや青年の生活実態からいっても親や家庭の状況からいっても、衣食住や家族をめぐる問題はいよいよ深刻ですから、家庭科への期待はいっそう高まっています。

また、共学家庭科の現場実践は前例・経験ともこの10年ずい分蓄積されていますが、それらもすべて「家庭一般」のとりくみでし、生徒も好感をもって受けとめ成果も実証され、

男女平等教育担当者へ！

駒野 陽子

国連「婦人の十年」が終り、今、二〇〇〇年へ向けて、更に男女平等をめざす時代に差し加かった。「男女平等」はまさに時代のトレンドである。だが、教育の分野では、それがたてまえだけに留まり、具体的な進展はもどかしいかぎりだ。

新教育課程で、中学・高校の家庭科男子必修が決められながら、現場では取り組みがもたれている。男子校などでは、今だになんとかうまくすり抜ける方法はないか、と頭をひねっているところも多い。

本来、女子差別撤廃条約ののちとして、性別役割をなくし、男女平等をすすめるための改訂なのに、その理念はそっこのけで、どうやって男子家庭科のかっこうをつけるか、だけに頭を悩ましているのか実状だ。

男子の家庭科がスタートするこの機会に、家庭科のみならず、あらゆる場で「男子平等教育」を実現する方策を考えてみたい。

今や、たてまえとして「男女平等教育」を

否定することはできないが、それを促進し、具体化していくプログラムと推進力になる機関がほとんどないのが問題だ。

そこで、教育庁や教育事務所に「男女平等教育」促進のポストと、専門の担当者を置くことを、行政に要求するのはどうだろう。

国内行動計画を実施していくために、国には婦人問題企画推進本部ができ、担当室が設けられた。地方自治体にも、婦人問題解決のための窓口ができ、担当者が定められた。

だが、教育、特に学校教育の分野は、教育庁や、教育事務所に強い権限をもっているのに、「男女平等教育」もそちらでどうぞ、と

びたを預けられた形になりやすい。ところが教育界は、受験競争におおられ、日々起る子どもたちの問題に手いっぱい、役所も現場も、「男女平等教育」にじっくり取り組むどころではない。それでも男女平等教育に熱意のある先生がいる学校では、男女別出席簿を五十音順に改めるとか、男女別に固定化されている生徒の校内での役割を変える、とかの実践がすすめられている。推進力になる「人」がいれば「男女平等教育」も少しずつ現場に定着していくのだ。

しかし、どの学校にも、そういう人材がいるわけではない。そこでまず、役所の組織の

誰でもが認めるようになっていきます。

家庭一般は、伝統的な内容を総合的に編成していますから時代おくれといった批判もききますが、生活の基盤である衣食住や家族関係はむしろ貧困化を深めており、時代おくれといわれる家事・裁縫でさえ、子どもの発達にとって見直され初めている昨今では、家庭一般は共学の科目として再評価さえ生れています。

「技術教育との統一は、共学のねらいを混乱させませんか」

中学の技術・家庭科を発展させて、高校でも積極的に技術教育を導入し、技術・家庭科として編成すべきだとする意見も出ています。しかし共学が性別役割分業の排除を目ざすとき、生産生活における両性の平等よりも家庭生活における男女の平等を保障することの方が、前者よりおくられているだけに急がねばならない、と思うのです。また、高校段階では技術科と家庭科はむしろそれぞれ独立、分科して、本格的に学習した方がより有効だし、合体してあいまいな内容にならない方がよいので、生活技術や生活一般より家庭一般でいきたいというのが、現場の多数意見ではないでしょうか。

中にポストを作り、担当者を置けば、「男女平等教育」への関心を引き出すことができる。もちろん担当者は、この問題に熱意のある人——しかし、たとえ始めはあまり関心がなくとも、ポストにつけば関心も強くなり、研究する姿勢もできよう。担当者となれば、そのポストで何をしたかが必ず問われるのだから……。

そうならば「男女平等教育」担当の指導主事や、研究指定校、そして研修講座なども次々と誕生するだろう。もちろん、このポストが、男子の家庭科必修の促進も担当し、その実施状況を点検する。

こうした行政の動きを受けとめる現場にも組織的な受け皿が必要だ。校務分掌の中に、「男女平等教育」の委員会を設置して、校内の問題を点検したり、カリキュラムの中に広く「男女平等教育」を組み込んだり、校内研修会を聞くなど、組織的な活動ができるようになれば、関心のある先生の熱意はみるみる具体化してくるだろう。男子の家庭科がスタートする今こそが、この要求の絶好の時期だと思ふのだが……。

12、13ページの件については、条件整備などとともに議員にも要請しています。

高等学校

学習指導要領解説 「家庭編」の問題点

和田 典子

△「進路・特性・個性伸長」の実体は？△

のびのびになっていた表記の「解説」が実
教出版K・Kから発行されました（発行日・
12月25日、店頭に出たのは3月末）。内容は教
育課程審議会答申にもふれながらの学習指導
要領の家庭科関連部分を総括的にまとめてい
ますから、現場教師にとっては便利な手引書
になります。また、巻頭の作成協力者名
簿からは今回の改訂家庭科を手がけた顔ぶれ
を知ることができます。これら編著書のうち
現場教師は約半にとどまっていることも関
係して、全体を通して上意下達の性格に偏向
しており、現実の高校生の実態への「対応」
が欠落している点は基本的な問題点です。

もっとも、臨教審・教課審・学習指導要領
解説という枠組みにそっての編集ですから、
当然といえば当然なことですが「〇〇への対
応」が編成の支柱として、くり返し登場して

くるのに対して、学習の主体者である高校生
への「対応」には、通り一遍の「生徒の進路
・特性」「個性伸長」に依拠して、がくり返し
出てくるだけで、彼らの学習要求や内面にふ
れた記述は全くみ当たらないという欠陥をもっ
ています。つまりきわめて天下りの文書だとい
うことです。

文部省刊行物は、従来からとかく学習権利
者の要求よりも上意が先行し勝ちで、特に現
実生活に近い教科や低年令向きになると、そ
うした傾向がみられました。が、「解説」家庭
編もその例にもれず、教育書とはいえない
ものです。もっとも生徒の実態は現場教師で
なければ提起できませんが、教育の大前提で
すから、内容をよるとる場合は、現実の生徒
の、生活や意識のフィルターを通すことを忘
れないようにする必要があります。

△男女共修の理念・対応があいまい△

「会報」の性格からいって、ここでは、男
女共修をすすめる・立場からの発言に限られ
ますが、二つめの基本的な点は、前項とわか
わっての問題です。今次改訂の眼目である
「男女同一の取扱いが必要であるとされた」
のは「差別撤廃条約」の批准に対応する観点
からであると「解説」は述べていますが、こ
の歴史的な改革についての「生徒の生活や意

文部省に 要望書を提出

問題の多い「指導要領解説家庭科編」につ
いて黙っているわけにはいきません。

世話人会では、五月十九日和田世話人の要
望書案について検討、文部大臣と家庭科担当
部門に郵送しました。

要望書の内容は次の通りです。

高等学校学習指導要領解説 「家庭編」に関する要望書

昨年12月、文部省は実教出版より高校家庭
科の解説書を出しましたが、教科書編集や
学校現場の関係者に大きな影響を与えますか
ら、本書の取扱いにあたっては左記の項目に
ついて格段の配慮・補正をして、女子差別撤
廃条約の精神にかなった改訂家庭科が実施さ
れるよう、要望いたします。

記

一、男女平等教育の推進を改訂家庭科の基

本にすえて下さい。

二、すべての科目の基本理念として、男女
の役割についての固定的な観念を排除するこ
とを最優先の課題にして下さい。

三、科目選択によって男女差が生じないよ
うな対応策を示して下さい。

四、選択必修三科目の単位数は、すべて標
準の四単位を下らないとの方針を徹底して下
さい。

五、生活技術、生活一般を履修する場合も
衣食住、乳幼児保育についての内容・水準が
家庭一般より低下しないようにして下さい。

六、生活一般の後半二単位の代替は、本来
望ましくないこと、「当分の間」および「特別
の事情がある場合」の条件を明示し、周知徹
底して下さい。

七、必修三科目の四単位履修を実現するた
めの条件整備を急いで下さい。

八、女子校においても、家庭科の女子向き
教科色を払拭し、性別役割分業観をのりこえ
る実践の方向を提示して下さい。

九、新らしく導入される情報処理や技術的
領域を担当する教師には、本格的な技術教育
が実施できるよう研修を受ける機会を十分に
与え、間に合わせの対応にならないようにし
て下さい。

文部省へ移行措置に ついての要望書を持参 津止視学官と会見

中嶋 里美

三月十七日、世話人の和田、半田、榎本、中嶋の四人で「中学校『技術・家庭』高等学校『家庭』の移行措置についての要望書」をもって文部省を訪れた。

文部大臣（不在であったので秘書課長に）、職業教育課長（不在のため代理の人に）、中学

文部省異動

- 家庭科担当の視学官だった津止登喜江さんは群馬大学教授に。
- 新しい視学官は小学校家庭科担当の教科調査官だった桜井純子さん。
- 中・高の家庭科担当の教科調査官は引き続き河野公子さん。

教研集会報告

充実した四日間

三月一日～四日 京都で
和田 典子

全教（全日本教職員組合協議会）、日高教（日本高等学校教職員組合）、全国私教連（全国私立学校教職員組合）、京都教職員組合の四者が主催する教研が、三月一日から四

ベスト・メンに

会員の長谷川さん

日本有職婦人クラブ全国連合会では、一九八五年から毎年男女平等などのためにつくした男性にベスト・メン賞を送っています。今年選ばれた三人のうちの一人が東北大学教養学部助教授（社会学）の長谷川公一さん、男女平等の研究が受賞の理由ですが、家庭科の男女共修をすすめる会の会員であることも各紙で紹介されました。

おめでとうございます。

校課長（不在のため代理の人に）、林田高等学校課長に要望書を手渡し、申入れを行なった。林田氏に対しては「移行措置の中に体育の九単位確保のことは書かれているが、家庭一般四単位については何も書かれていないのはおかしい」と主張すると「それは職業教育課に言ってみよう」と言われたが、やはり高等学校課長としても答えるべきであると思った。最後に視学官の津止氏を訪ねた。今年の三月三十一日で退官されることもあってか御自分の考えを卒直に語ってくれた。

二月二十七日NHKの「おはようジャーナル」で取上げられた「ぼくたちも家庭科？」について、半田さんだけがコメンテーターとして出たが、もう一人別な角度から発言する人が必要だった。あの様な短い時間の取材では何も伝えられない等とテレビ番組組についての不満を先ず述べられた。半田さんはテレビを通じて「文部省は施設設備、教育配置のための予算措置をとらずに生活技術、生活一般を設けて男子校に抜け道を教えたこと。それに飛びついて『男子向』家庭科を教えるのでは男女の役割分担の再生産になること」等を語ったのであった。

また、以前家庭科教師に対する指導者講習会で津止氏が発言したこと「男女共修の家庭

科というけど、従来どうりやればいいのか等一に対して半田さんは質問状を送ったがそれには返事がなかった。それについては「講習会でテーマを取るなんて、そんな失礼なことではない。だから半田さんの手紙は無視した。それ以外でも男の文字で誤字だらけで家庭一般をやれ等というハガキがたくさんきて困ったことがある。」と述べた。こちらからは正しい情報を伝える為にテーマは必要であり、家庭科以外の教師にも共修の事を理解してもらうための研修の場も必要であることも伝えた。移行措置の中で「家庭一般は四単位必修と書いて欲しかった」と伝えると「指導書の中にちゃんと書いてありますよ」との事だったが、私たちが会った日にはまだ店頭には出ていなかったのだ。帰りに文部省の地下売店でさがしてもなかった。

また家庭科の授業のあり方についての私たちの質問に対しては「家庭科の別習学習については文部省レベルで取組みをはじめましたよ」とのことだった。

家庭科をすべての生徒、すべての教師、すべての親たちに開かれた教科としていく為に文部省のトップとして、もう少し世間の動向について関心を払って欲しかったというのが会見しての卒直な感想だった。

日間、京都で開かれました。特設の「登校拒否」もふくめて教科・問題別分科会は合計二六にのぼり、右翼の妨害にもかかわらず、従来になく自由かつ、達な論議ができました。

家庭科分科会（於みかげ会館）の出席者はレポーター20名に傍聴を加えて約50名、うち高校39名小・中11名という構成でしたが、東北、四国、中国、九州各県からのレポートはなく残念でした。官制研もまきこんだ定例研の教材研究や私学の活力にみちたユニークな実践、京都の共学にかけられている反動攻勢の報告など多彩な内容に加えて、積極的な研究者の発言もあり、充実した四日間でした。

男女共学のレポートが主流

三月二八日～三一日 津山で
半田たつ子

第39次教研（連合）の家庭科教育分科会は岡山県津山市で開かれました。男性の家庭科教師の報告三本を含めて、レポートの内容も男女共学が主流。女子用家庭科の壁は崩れたことをモロ感じます。ただ教研が二つに分かれたことを反映して、高校のレポートが少なかったのは残念でした。

全体会では、改訂学習指導要領批判、家庭

科男女共学必修の課題の他、消費者教育にどう取り組むか、家族・家庭をどうとらえるか、コンピューター教育と家庭科を中心に語り合いました。

静岡の小学校の男の先生の「自らの生活を問う家庭科教育―消費者教育をどう展開していったらよいか」は、食品添加物に取り組んだもの。子どもたちは最後に厚生大臣に手紙を書き、食品添加物をなくすよう訴えました。この実践で何よりも僕の生活が変わった、と先生の正直な言葉に拍手も起きました。大分から来た傍聴の技術科教師が、家庭科は「技術家庭科」として発展すべし、と力説するシーンもありました。男の先生も色々です。

消費者教育も、家族・家庭に関する教育も改訂指導要領では重要な柱になっています。為政者が押しつけてくる内容ではなく、「私自身が子どもたちにつけたい力とは？」をめぐり活発な討議がありました。コンピューター家庭科をめぐる各県の状況報告で、戸惑いしつつも走り出していることが明らかにされました。高校分科会では、何をどう教えるか―衣・食・保・家族など―、運動のすすめ方―条件整備など―を、掘り下げて議論しました。司会、レポーターに会員が大活躍をしたことも申し添えます。

国際婦人年日本大会の 決議を実現するための

連絡会報告

中嶋 里美

二月末から五月七日迄の連絡会の主な活動は次の通りです。

★世界ユニフェム協会総会報告(二月二二日)
昨年十月末各国のユニフェム国内委員会の国際組織として結成された世界ユニフェム協会の総会がニューヨークで開かれ、そこに参加した野瀬久美子さん(汎太平洋協会)からその様子を報告していただいた。今回の会議の主眼は規約づくりであったが、現在国内委員会が出来ているのはフィンランド、スウェーデン、アメリカ、ベルギー等の六ヶ国、準備中がオーストラリア、西ドイツ、フランス等の四ヶ国、設立見込みの国が日本をふくめてニュージーランド等四ヶ国。各国では物品販売や募金、機関誌の発行などのとりくみをすすめている。

★国連世界会議日本開催提案について

世話人会報告

△三月十七日▽

春号の発送作業をしながら、この日の午前中に文部省での世話人と津止氏(当時視学官)との話し合いの報告を中心に世話人会がすすめられた。津止氏は、「会」の世話人代表として半田氏が質問状や手紙を出しているにもかかわらず個人的な通信と判断して「そのまま返事をしないでおい」こと、男の人たちから家庭科について手紙がくるのはおかしいと考えていることなどが報告された。

また、文部省から発行の高等学校学習指導要領解説家庭編についても、内容を検討していくことにした。(担当・芦谷、半田、和田)

さらに、事務局体制の中で、会計の収入の仕事と会員名簿の管理も半田めぐみ氏に依頼すること、議員へは、新衆議院女性議員と文教委員会の男性議員にもアンケートを送ること、男子校アンケートの管理は持田氏が保管すること、四月七日総会の役割分担などを決め、新世話人候補には坂本ななえ氏、柴田栄子氏があがった。(大西 歩)

△四月七日▽

都立秋川高校の岡部先生の参加で今後の会

一月二十四日、刈田、中西、糸久、沓脱議員等が申入れをされたが、外務省の審議官は金がかかるのでとしぶっていた。

★「女性と開発」についてシャロンユニフェム局長を囲む会(三月二〇日)

国連は一九六〇年代を第一次「開発の一〇年」と設定し、第二次(一九七〇年代)第三次(一九八〇年代)と開発途上国の困難を解決するための取組みをすすめてきた。しかしこの取組みの中で女性の参加と成果の女性への配分が不十分であることが明らかになった。国連婦人の十年の中の活動に開発途上国の女性のための独自の活動を行い、国連婦人開発基金(ユニフェム)も設立した。

途上国の女性達の中には一日二〇キロ(片道)も歩いて二〇キロの水を頭の上にのせて二往復する人達もいる。彼女自身も二〇キロのカメを頭にのせたことがあるが首がちぢんでしまいそうだったと語った。会には高橋展子氏も参加し、これからの日本の援助の中に大いに女性の視点を入れていくつもりだと語った。衆参女性議員二〇名の参加もあった。

★教育小委員会(四月二三日)

第十四期教学中審査は生涯学習の基盤整備についての答申を出したがそれに対する連絡会からの要望書を作成、内容には「男女平等の推

の運動もより広がりできたし、男子校の実情も聞けたしよかったねという総会の感想から話が始まりました。九名が参加。

一、総会の総括。

一、高校指導書に対する要望書。新視学官への働きかけを和田さん中心に行う。

一、男子校アンケートの総まとめをし、男子校向けのパンフレットの編集に反映させる。

一、男子校への働きかけ。学校訪問をする。

一、議員アンケートの結果をもとにして、個別にお会いして要請をする。

一、全国各地の世話人間の連絡をとるために連絡網を作成。活動の様子をお知らせ下さい。各県に一名の世話人をおきたいが、今のところむずかしいので各地方に数名はいるといいうように交渉をしていく。

(磯部 幸江)

△五月十九日▽

●報告

●連絡会から文部省へ要望書をだす(生涯教育・マスメディア)。開発援助の内容を明らかにするよう働きかけていく。

●秋川高校を訪問したこと(6ページ参照)。なお、家教連でも男子校訪問を行っており、明治学院を訪問したことが話題になった。

●都立高の男女定員数はわくをはずす方向と、

進を生涯学習の基本にすること」、「学習権を行使するため、政府、自治体は有給の教育休暇制度を確立すること」等を盛り込んだ。

マスメディアに対し「女性蔑視、人権侵害の映像、出版物商品に対する申入れ」をするために要望書を作成、五月七日の総会にはかることにした。

★一九九〇年度総会(五月七日)

大羽綾子世話人の代りに婦人有権者同盟の松浦三知子氏が新しい世話人に選ばれた。

各委員会からの報告があったが「平和、国際協力」分科会からは政府に出す「女性に対する開発協力の強化と国連婦人開発基金への拠出増加に関する要望」が提案され可決された。またODAの内容について私たちが知る必要があるという意見が出された。

また山口事務局長からは十一月末頃に日本大会を開催してはどうかとの提案があった。十一月十七日に憲政記念館はおさえてあるとの事だったがどの位の規模で行うのか、どんなテーマを中心にするのかは次回の委員会で考えるということになった。

とりわけ多くの人々をひきつける講演等も提案して欲しいとのこと。私はアイスランド首相(女性)か元ノルウェー首相のブルントラント氏の話を聞きたいと提案した。

都立定員検討委員会で都教委教育次長の言。芦谷、石川世話人が参議院の粕谷照美議員と森暢子議員と面会して協力を要請した。

●話し合い

●文部省に出す要望書の原案を検討し、発送までの段取りを決定。

●国会議員へ働きかけ。アンケートについてのお礼とともに、国会で質問してもらうよう要請する。質問してほしい内容も書いて五月中に連絡する。

●パンフ作成に向けて。男子校アンケートをもとにして六月中に資料をつくる。

●集会に向けて。パンフ作成のスケジュール、11月の日本大会等とにらみ合わせて内容や日取りについて検討して行く。

●男子校訪問については、次は麻布高校に交渉。

●夏の各団体の集会で販売やアピールを行う。各地域での運動のすすめ方については次の世話人会で検討。(榎本 稲子)

※夏には各地でいろいろな集会が開かれます。教育関係、婦人問題関係の集会には積極的に参加して、共修運動のアピールやパンフ等の販売活動をしてください。集会のもようについてもお知らせください。

夏の集会のおしらせ

第36回日本母親大会へのおさそい

「生命を生みだす母親は生命を育て生命を守ることをのぞみます」のスローガンで、今年には首都圏千葉で開かれます。要求や運動の報告を持ち寄って話し合い、問題解決への道を見出しましょう。

△7月28日・10時～16時▽

●分科会（千葉大学各教室）

46分科会81テーマで「子ども・教育」「男女平等教育」の分科会もあります。「生活・権利」「平和と民主主義」「母親運動」の問題について話し合います。

●特別分科会

◆「農と食は日本のこころ」（講師井上ひさし・重富健一両氏 千葉市民会館） ◆「子どもの権利条約」（千葉県教育会館） ◆「巨大大開発・四全総」（船橋市民文化ホール） ◆「21世紀にむけてはばたく女性たち」（松戸市民会館）

●分科会終了後母親行進・交流会
△7月29日 10時～15時半▽

●全体会（幕張メッセ国際展示場）

◆記念講演 講師 一番ヶ瀬康子氏 ◆母親運動のあゆみ ◆今日の運動（劇構成による） ◆決議・宣言・申しあわせ 等

△費用▽会員券一日二千元 託児所二千元 ※お問合せは日本母親大会 ☎三・二三〇・一八三六 または各都道府県母親大会へ

第25回家庭科教育研究者連盟 夏季研究集会へのおさそい

新指導要領・指導書もそろって、男女共修の移行、実践の年になりました。具体的な学習内容になりますと、女性差別撤廃の考えがきちんとふまえられているのか、領域編成をどうするか、三科目の内どれを選択するのか等々疑問が次々におこってきます。皆で集まって情報を交流し、話しあいましょう。

記

期日 '90年7月30日正午～8月1日正午迄
会場 高知市 三翠園ホテル
JR高知駅より市電県庁前下車3分
テーマ 新しい家庭科 何をどう教える

——— すすめよう男女平等 ———
費用 参加費5千元（学生3千元） 宿泊費一泊二食1万円

※ くわしくは、月刊家庭科研究7月号・8月号参照、または家教連事務局（☎048・832・7333 夜も可）へお問合せ下さい。

'90年We夏季フォーラムは 伊豆長岡で！

八月三日から五日まで、あなたの手帳にメモを。Weフォーラム、今年のテーマは「出会いは歴史をつくる—アジア・子ども・人権—」です。シンポジウムは最首悟・松井やより両氏コーディネーターは関千枝子氏という豪華版、タイトルは「アジア・子ども・人権」。

家庭科については第一日夜「グチこそエネルギー、今こそ家庭科」で本音を出し、二日目に分科会を三つ設け、夜はそのまとめの会と充実したプランです。開かれた場で、家庭科に関して心ゆくまで語りあい、多くの人と出会って歴史のつくり手になる—フォーラムの楽しさを、今年こそ味わって下さい。お問合せは、半田（03・326・1380）まで。